

早大・大学発ベンチャーが動く



アフターマーケットの高度化のためのコンソーシアムが作られた。記者会見に臨む小野田早稲田環境研究所社長、清水ユーパーツ社長、有賀地球健康クラブ社長（左から）

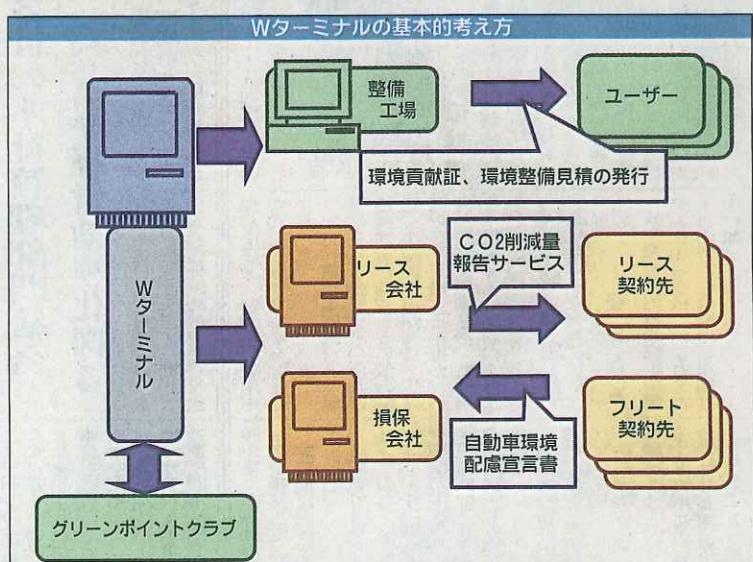
CO₂削減に關わるデータシステムは早稲田大学等と共同で開発した。提供を目指すのは、大学発芽パーティ（清水信夫社長、埼玉県熊谷市）が共同開発した。研究所（社長・小野田弘士早稲田准教授）で、「Wターミナル」として自動車ユーザーへの環境配慮活動を促すことを目指したデータ提供を行う。効果、②オイル交換、エンジン洗浄などの自動車メンテナンスに關わる環境負荷削減策で活用するグリーンポイント果、③エコグッズとして売ら

自動車リサイクル部品の二酸化炭素(CO_2)削減効果を数値化したデータベース「グリーンポイントシステム」の活用範囲が拡大しようとしている。エコ・ユーナムの育成を目指すデータベースの一部に組み込まれ、整備事業者も損害保険業界、大手自動車ユーザーといつた利用範囲の拡大が見込めるからだ。自動車から排出される CO_2 削減は温暖化防止の重要な課題。この解決に向けて自動車フットマークетが動きだす。

小升イクル新事情

データベースを高度利用

CO₂削減効果を数値化



関心高まる「Wターミナル」

実証データーなどになる。この利用拡大に向けて昨年12月同大学で業界関係者を集めてシンポジウムを開催し、自動車アフター・マーケット高度化コンソーシアムへの参加を呼びかけた。損害保険会社、リース会社、整備・

売り上げ縮小に悩む自動車
アフターマーケットが、Wタ
ー・ミナルが目指すエコ・ユ
ー・マークが、Wタ
ー育成で変わり
だしそうだ。さま
ざまな場面でCO₂削減デ
タを提供できれば、それだけ
ユーザーに自動車メンテナン
スに対する関心を呼び起す
はいるが、一般
高度化コ
目標で、温帯効
政府は示ストラ
ことは確実だ。

整備工場の運営を主とする会社で、主に車両の定期検査や修理を行っている。また、車両の販売・買取も行っている。

高度化コンソーシアムは、その一步を踏み出したばかりだ
が、今後の広がりが注目され
る。エコ・ユーザー
を育てれば売り上げ
が伸びるというビジネスモデル
が達成がアフターマーケット
構築できるかどうか、期待
は大きい。

のP.Rが可能になる。
こうした活動を通じて、工
コ・ユーザーを育成すること
にもなる。単価ダウンに悩む
整備業界にとっては、優良顧
客の確保とサービスの差別化
を実現できることになる。
早稲田環境研究所は地球健
康クラブ（有賀博之社長、東
京都千代田区）とともにシステム
デム利用の実証事業を始め
る。また、ユーザーの関心を
高めるために、Hコボットト
の導入、活用についても検討
している。
自動車リサイクル部品業界
では、個別の購入者ごとにCO
₂削減データを提供できる
ようにして最新クリーンポイ
ントシステムの利用者は85社
にとどまっている。

月ごとに7千円前後の利用
費用がかかること、それに取
引先の整備業者ごとに出すこ
とができるCO₂削減データ
の活用法について、具体案を
持っていないことが、参画事
業者数が少ない要因になっ
ているものと見られる。ただ、
コンソーシアムそのものの活
動については関心は高く、
「コンソーシアムで他業界の
話を聞いて活用を考えたい」
というグループもある。